

壬生町庁舎建設委員会 会議録

会議名：第5回壬生町庁舎建設委員会

日時：平成30年4月9日（月） 午後2時～午後4時14分

場所：壬生町役場 2F 正庁

出席者：委員18名

三橋 伸夫、梁島 源智、山縣 博司、神永 政夫、青木 隆司、毛塚 重徳、田中 一男、関本 和夫、藍田 収、松本 幸三、大友 達示、栗橋 和江、大橋 信行、落合 広美、杉山 孝則、田口 英二、奈良部 好司、寺内 宏美

事務局7名

櫻井副町長、出井総務部長、増山新庁舎建設室長、葭葉室長補佐、桑川主査、古川主査、とちぎ建設技術センター（1名）

傍聴人数：町民2名 新聞記者4名

【議事内容】

1 開会

・年度の切り替えに伴う一部委員の変更について、事務局より委員の紹介を行った。

【変更委員：名簿17番 落合広美委員（壬生町社会福祉協議会常務理事）】

・委員長より、会議録の署名について毎回名簿順で2名の委員が署名することから、今回の会議録署名人の確認を行った。【議事録署名人：9番田中委員、10番関本委員】

・委員長より、今回の議事（2）の「新庁舎の位置について」は事務局より候補地周辺の民有地などにも関わってくる問題でもあり、加えて委員の皆様には自由なご発言をいただきたいことから非公開としたいとの提案があった。委員長案としては非公開としたいがどうかと委員に提案があった。

⇒委員の一人よりすべて公開でいいのではないかと意見があった。また他の委員の一人からは、委員長の提案に賛成の旨の意見あった。

⇒委員長より、議事（2）については非公開とすることとしたい旨が委員に伝えられた。

2 前回会議録の確認

委員長より、前回会議録の内容に修正等の有無を確認した。

⇒ 委員より特に修正等の意見なし

3 議事

(1) 他市町視察結果の報告

- ・第4グループによる茨城県坂東市役所視察報告を行った。（報告内容は【資料1】のとおり）
- ・発表の最後に視察をした職員から、坂東市の住民からは庁舎が大きすぎるのではないかという意見があることや、建物内に植樹された樹木の維持管理費が問題であること、駐車場が敷地内に確保できず歩行距離が長いこと、ガラスを多く使ったことで天窓に結露ができたことなど、問題点についても報告された。

【委員意見・質疑応答】

委員) 職員のための休憩室や、急病人が出た時のための診療室などはあるのか。

報告者) 診療室については分からないが、執務室の裏にスペースが設けられており、そこで軽い食事などが取れるようになっている。

委員) 駐車場は何台止められるのか。

報告者) 敷地の1階に30台、地下に21台、また隣接する児童福祉センターに60～70台、道路を挟んだ駐車場にも60台位止められるようになっている。

委員) スライド6ページの建設のプロセスでは、新庁舎建設検討委員会が発足してから短期間で庁舎建設の着手まで推移しているようだが、何か議会サイドで問題となることはなかったのか。庁舎の建設を検討するに当たっては、議会サイドとの調整が重要となると思う。

報告者) 議会サイドとどのような調整をしたのかまでは聞いていないが、スタートが東日本大震災による被災であり、また分庁方式という問題点も抱えていたことから、議会との調整もスムーズだったのではないかと思う。

委員) 庁舎内部の禁煙・分煙の考え方はどうなっているのか。

報告者) 分煙化されており、4階の議会スペースと既存の第2分庁舎に喫煙スペースが設けられている。

副町長) 禁煙が世の中の潮流であることは理解しているが、町の新庁舎においてどうするかなど細かな詰めはまだしていない。これまでも喫煙については場所や時間などの縮小に取り組んできた経緯もあるので、そのあたりも考慮して考えていきたい。

委員) 東京オリンピックでは全面禁煙となるようでもあるので、町もぜひ取り組んだ方がよい。

委員長) 補足すると、大体は庁舎外に設置するのがスタンダードとはなっている。

委員) もう一点、前にも言ったが職員用の食堂は作った方がよい。職員が自分の机で食べているのは衛生上良くない。また、手洗い・うがいができる場所も作った方がよい。

委員長) 今委員から詳細なご提案がありましたが、これはこの次の段階の基本計画で検討いただきたいと思います。

委員) スライド5ページの基本コンセプトの多くの市民が集い開放的で「活気に溢れた庁舎」とあるが、これはどのように新庁舎に反映されているのか教えて欲しい。

報告者) 入口を入ったところが吹き抜けになっており開放的な庁舎になっているのと、多目的ホール、市民テラス、市民活動スペースを設けており、そういったところで開かれた庁舎とコンセプトに挙げている。

委員長) 地下水を利用しているということだが、地下水を循環させることで地中熱を空調として活用して省エネに生かしているということでのよいのか。

報告者) 基本設計には地下水の熱を利用すると書いてあったのだが、視察の際にはそれがどのように生かされているのかは確認ができなかった。

委員長) 資料の8ページに事業費が71億1千5百万と出ており、これは設計も含めての金額だが、だいたい1㎡当たりの事業費は55万円/㎡となる。設計を除いたとしても50万円/㎡程度はかかっており、報告によるとかなりお金をかけた庁舎のようだが、これより下げるのはなかなか難しいものである。

※ここから非公開の議事に入るため、傍聴人（この時点で2名）については退席していただいた。

(2) 新庁舎の位置について【非公開】

副町長) まず今までの経緯を説明させていただくと、これまで4回に渡って新庁舎の規模、費用などの話をしたが、主に庁舎の機能について話をしてきた。これは最初に立地の話から始めると議論の中身が収束できないことから、まずは中身をどうしていくかという議論をさせていただいた。役場内の検討も含めて今までの議論を整理し、7つのコンセプトを前回まとめさせていただいた。

そして今回7つのコンセプトを整理して4つの項目にまとめて比較をした表を作成したが、大体どこの庁舎の検討でもこのような形となっている。そしてこの4つの項目について主な指標ということで、表の右側のとおりまとめさせていただいた。この資料は結論ありきで出しているものではなく、議論を進めるうえでのたたき台となるものであることはご理解をいただきたい。このたたき台となる資料については、町内部で作っている検討委員会の方で検討をした結果である。この比較表については、今回皆様に議論をしていただいた上でさらに加筆修正をして、改めて皆さんにお示ししたい。そのため資料だけが独り歩きしないよ

う、今日議論をいただいた資料については会議終了後に回収させていただきたい。

候補地については、前回まで議論してきたとおり、基本は町有地として考えている。これは国の市町村役場機能緊急保全事業という起債の活用を前提に考えているため、期限が限られているからである。

今回お示した図と比較表を見ながら説明をさせていただき、委員のご意見をいただきたい。また議会の方も新しい体制となったので、委員会から示された意見を基に今後議会との調整についても進めていきたい。

これから資料の説明をさせていただくが、比較表の一番下の総合評価はあくまで庁内での検討の結果であることをご留意いただきたい。

比較項目のまちづくりの視点などは、ここではインフラや周辺環境を挙げているが、それ以外にもどのように町内の均衡ある発展を図っていくかという視点も含めて総合評価を行っている。

【葭葉係長より資料の内容について説明】

副町長) 現庁舎については歴史的、文化的な位置付けが非常に大きいということで慎重な議論が必要だが、客観的な比較を行った上で庁舎が移転することになった場合は、ここをどうするかが重要な議論となる。それについてはまだ役場内部でも詰めてはいないが、壬生地区の活性化の拠点に使えるのではないかと考えている。町全体を見渡すと、北部では六美町北部地区区画整理事業、稲葉では県内最大の圃場整備事業などを行っており、これまで壬生地区についても城址公園の整備や電線の地中化、役場前の道の整備、東雲公園の整備などやってきてはいるが、それでも空き店舗等が増えているのが現状である。この庁舎に関する検討を機にこの地区の活性化を考えていくというチャンスにもなるのではないかとというのが役場の中でも若手を中心にあつたため、そういったご提案もいずれできればと考えている。そういったことも踏まえての総合評価のため、ここで結論ありきということではない。いろいろな視点からご指摘をいただきさらに慎重に検討をしていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

委員長) 建設候補地として町有地6箇所について、4つの観点で説明をいただいた。私としても庁舎の位置がこの委員会の議論の山であると考えているので、この件については一人一人に意見を聞かせていただきたいと考えているが、その前に説明のあった資料の内容について質疑はありますか。

委員) 比較表の中で4つの検討項目があり、現庁舎の総合評価には歴史的文化的蓄積という文言があるが、それが一番重要と考える。比較項目への追加が必要である。

委員) 経済性についての観点の項目は、仮庁舎の必要性の有無だけではないのではないかと。例えば駅から遠いところにするのであれば、公共交通の整備に必要な費用なども比較して検討する必要がある。今の内容では現庁舎は経済的に駄目という結論がありきに思える。また、人口重心点で比較をしているが、現時点での重心点は100年後には変わるかもしれないし、実際にこれまでも変わってきていると思うので、あまり強調しない方がいいのではないかと。もっと経済的な面から、35億というお金の中でどうやっていくかということを決めた方が一番論理性があるのではないかと。

委員長) この人口重心点については、仮に100年前の明治時代と比べてもそんなに変わっていないと思う。そう動くようなものではなく、重石のようなものと考えた方がよい。

委員) この6箇所の候補地は全て町有地なのか。この6箇所以外には考えられないのか。

事務局) 6箇所とも町有地である。この6箇所以外にも町有地はあるが、小さい土地やすぐに土地利用の転換を図ることが難しい土地については除いている。

委員) 町有地位置図の地理的中心点というのは、東京で言えば立川あたりが地理的に真ん中とい

うだけの話であり、あまり意味のない指標ではないか。東京都庁がなぜあそこに建っているのかというと、駅があり、官公庁や皇居、オフィス街などが集約されているからである。壬生町においてもどこに文化的な中心があるのかというのを考えて欲しい。

委員) 病院などの公益的な施設があったり、高速のインターチェンジが近いことなどは考慮しないのか。

事務局) 幹線道路に面しているというところで病院や IC などの施設の利便性なども高いと読み取れるかもしれないが、まちづくりの視点にそういった項目を加えてもいいかもしれない。

委員長) 公共的な施設との近接性という観点は、庁舎に行くついでに買い物とかも考えられるので利便性の項目の中に入れられなくもない。また、車での移動を前提にすれば直線距離が重要なのは確かであり、人口重心点からの距離は無視できない要素である。一方で駅からの距離というのも、これから高齢化社会が進展していく中で考慮すべき点である。

委員) 庁舎が移転するという事になった場合、跡地を中心市街地の活性拠点に利用できるとあるが、この地域の町の活性化をどのようにしていくかを併せて検討していく必要がある。

副町長) 庁内の検討でもそこに議論がいつている。もし移転するという事になった場合、ここに広い敷地ができるので、その跡地をどう活用するのかの検討を町民全体で考えていくことになる。近隣の事例では、栃木市や、鹿沼市のまちな駅、旧今市など人を呼び込むことに成功している事例などもある。役場があるよりも活性化に繋がるような拠点整備が必要である。それには役場だけが引っ張っていくというより、町民全体で、地区で考えていく必要がある。もし、まちな駅を作るとしても関係者による協議会を作って検討をすることが町の活性化に繋がるのではないか。世の中の流れは旧市街地の活性化であるが、ハード面の整備だけでなくソフト面が重要であり、栃木市のようにこれまでいろいろなイベントなどを積み重ねてきた成果があがっているのではないか。壬生についてもいろいろな芽があると思う。最近では町中巡りのツアーが始まったりしており、そういったものをまとめ上げ、コーディネートするような拠点ができれば一つの回答になるのではないか。これは庁舎の中のワーキングでの議論ですけれども、より広い議論になっていいものが出来ればというのが私個人的には考えている。

委員長) 内容についての意見はもう無いようなので、ここからは各委員からそれぞれ意見をいただきたい。今日見せられた資料を見て急に意見をというのも酷なところではありますがよろしくお願いします。

委員) 4番の CD グランドについては、子供が学童野球をやっていることからなじみが深い場所ではあるのだが、メリットデメリットあると思うが総合的には理想の場所かと思っている。グラウンドが広くいろいろな意味で利便性があると思う。しかし駅からは距離があるため、壬生町には現在デマンドタクシーはあるが、バス等の公共交通機関も考えて欲しい。また、今の庁舎についても古くからの歴史的な町であるので、並行して力を入れていって欲しい。

委員) 私は5番の現庁舎の位置がいいと考える。現在の場所から動かしたときには跡地整備などに税金が使われることも考慮する必要がある。移転について揉めないのであれば CD グランドでもいいと思うが、今後揉めるようであればここでいいというのが意見である。

委員) 検討委員会が発足してからも、噂として CD グランドかなと飛び回っている。これについては土地も広いし駐車場も確保できるのでいいのではないかと思う。難点としては駅から遠いため、壬生駅からバスを何往復か出すなどやる必要があるのではないか。

委員) 私としては5番の現庁舎が良いと思うが、組織としては町の方針に従いたい。現在地から移転するのであれば、活性化策が必要と考える。

委員) 現在の庁舎から移転する場合は、街中の活性化策が重要となる。参考に申し上げますと今から 25~6 年前に庁舎建替えの議論が出たときには、素案が漏えいして町民から現庁舎を移転するなとクレームが出た。やはり移転は歴史と伝統的な面から問題があるから騒ぎになった。

今回のように資料を回収するくらい慎重にやった方が良い。いろいろ問題はあと思うが、4番のCDグラウンドがあらゆる角度から考えて相対的にバランスが取れているのではないかと。ただ、議会との調整をしっかりとやって欲しい。行政、議会、一般町民がみんな最終的には納得できるような形で決めて欲しい。

委員) 現在の意向としては、財源が許す限りではあるがCDグラウンドが良いのではないかと私の地元でも話をしている。庁舎内での検討資料にもあるように、4車線の幹線道路に面しており条件が良いと思う。

委員) 先般の関東・東北豪雨の際は、鹿沼で堤防が崩れていなければ壬生の街中が危なかった。そういった今までにない災害への備え、安全安心なまちづくりを考慮すると、私は4番のCDグラウンドがいいと考える。

委員) 他の市町の新庁舎の建設位置の根拠を見ても防災の点が大きいので、4番のCDグラウンドが一番いいのではないと思う。60年前に合併したが、各地域でずれがあることを住民として感じている。そういった点でランドマーク性というのが大事であると思う。本当の意味で旧壬生町、旧稲葉村、旧南犬飼村が結束するためには移転したほうがよいと考える。一方で、旧町内がさびれるのではないかとという点が問題となるので、その点について検討して欲しい。

委員) 選定する際は消去法を使って候補地を2つ3つに絞ってもらった方がもっと有効な議論ができるのではないかと。跡地をどうしたら良いかについて町の考えが弱いと思うので、もっと町でリーダーシップをとってやって欲しい。また、4番のCDグラウンドはいろいろな目的で現在も使われているので、そこに移転する場合には今使っている利用者の意見を聞いて、今後も続けていけるようにどうしていくかを考えて欲しい。

委員) 私は今の庁舎の位置が理想と考えるが、実際としては周辺の道路状況が危険であることから、この機会に4番のCDグラウンドを希望します。町の中心に近い場所であり、高速道路も使い易いと思う。一方で、今の庁舎がある街中をどうするかという問題もあるので、そちらについても対応していただければと思う。

委員) 私は4番のCDグラウンドが良いと思う。しかし、会議に来る前から、改修して建て直すらしいなど、庁舎に関する噂が入ってくるので合点のいかない点もある。私個人としては4番が良いのではないかと考える。

委員) 壬生町がこれから市に発展していくということを考えると、4番のCDグラウンドが適していると私は思っている。しかし、庁舎跡地の問題が多くの方から意見が出ているように、私もここが第2の拠点として発展するように考えて欲しいと思います。

委員) 私個人的には経済性や駐車場の確保、壬生町の50年後100年後の発展を見据えると4番のCDグラウンドが一番と考える。しかし、現庁舎の跡地利用を十分考えた上でないと町民には納得していただけないのではないかと考える。

委員) 運動場を潰されるということは、今そこを使っている利用者があるので、その対応をどうするのかというのを考えていただきたい。また、通学路として使われている道路もあると思うので、工事に入れば工事車両も多く通りますし、新庁舎ができれば交通量も多くなるので、そのあたりをきちんと考慮していただければ場所がどこでも賛成はしたいという考えである。

委員) 幹線道路も近いし、病院が近くなり、災害時にヘリポートとしても使えることから4番のCDグラウンドが一番いいと思う。しかし周りからは、どうせ会議をやったって場所は決まっているんでしょなどといった噂があちこちから聞こえてくるので、しっかりオープンにして皆さんの意見を聞いて欲しい。

委員) 宇都宮市役所や栃木県庁のように、駅から近く商店街があり活気があり、皆が集まる場所であることが理想と思う。壬生町というのは壬生駅から近いのが壬生町なので、5番の現庁舎での建替えが理想である。精忠神社、城址公園、常楽寺、御琴神社、松本邸住宅など歴史

と文化が集約した場所に役場があった方がよい。

委員) 私は4番と5番で迷っているのだが、将来的に年を取った時を考えると、現庁舎が駅から近く良いと思う。一方で子育て世代は車があるから駅から遠い近いはあまり意識していないと思うが、私は4番のCDグラウンドが良いと思う。何故かという、三年前に大雨の災害があった時に家族が鹿沼市役所に行ったのだが、雨の中夜中の2時に出かけていった。朝テレビのニュースで橋の映像を見たときに、夜中に車のライトをつけていても橋があるかないか分からないような状況であり、やはり現庁舎だとハザードマップで浸水の面で不安があるので、安全確保の点で4番がいい。

委員長) 各委員の意見を伺うと、6箇所の候補地のうち4番のCDグラウンドと5番の現庁舎以外は出てきていなかったですし、委員からも消去法で2、3箇所に絞って議論を継続してはという話もあった。今日で結論を出すというのはいかにも拙速であるし、今日の意見でも比較表で比較する項目が足りないという意見もあったので、その点を事務局で今日の意見を踏まえて改善して評価を加えた上で次回改めて検討したいと思うが、その前提として現庁舎とCDグラウンドの2箇所絞って議論を進めるということでしょうか？

⇒ 委員より賛成の旨返答あり

委員長) 現庁舎であれば仮設庁舎や浸水の問題について検討する必要がある。またCDグラウンドであれば、グラウンドを廃止することになるのでグラウンドの機能をどうカバーするかについても、庁舎の問題とは直接は関係ないが町民への行政サービスを確保するという点で、すぐには難しいと思うが検討をする必要がある。また、4番のCDグラウンドが良いという人も、跡地を利用した活性化をどうするかを心配しているというのもあるし、町がリーダーシップをとってという意見もあったので、町としての考え方を整理していただきご提示していただければと思う。

副町長) やはり庁舎だけを考えると結論が見えないので、まちづくりに町の積極的な考え方というお話もあったので、そういった視点での考え方を次回にはお示ししたいと思う。一つは、仮に現庁舎が移転することになった場合の跡地活性化について、もっと具体的にというお話があった。また高齢化を踏まえて、駅からの近接性の話もありましたが、これは庁舎だけに限らず、高齢化は全町的な課題なので、公共交通のあり方、デマンド交通など、町として作っていかねばならないので、今回の庁舎の検討をきっかけに高齢化を前提とした交通の体系を考えていきたい。現庁舎は今あまり歩いてきている人はそんなにはいないが、やはり駅との関係は重要であり、それは役場と駅との関係だけでなく、獨協医科大学と自治医科大学とか、JR線との関係などもあるので、総合的に考えて交通の体系を考えていくきっかけになればと思います。それから総合運動場についても、仮にグラウンドを潰すとなったときは、町としてもボルダリングに力を入れたり健康づくりということでいろいろなスポーツを通じたまちづくりに力を入れているので、当然の課題として庁舎が移転するときには対応策が見えてなければ町民も納得しないと思うので、町として示していくことになるだろうと思います。交通体系、スポーツを通じた健康づくり、中心市街地活性化、まさにここでいうまちづくりの視点、そしてこのまちづくりの視点には歴史性や文化性の視点が重要になってくるので、町としても次回には考え方をお示ししたいと考えている。

委員長) 議題については以上となるが、簡単に補足させていただくと、庁舎の移転には議会のご理解を得ることも必要となるので、議員の皆さんが納得するものであるということも重要となってきますし、この委員会はあくまでも町長からの諮問に対して答申をするものであり、この委員会で位置を決定するものではないが、この委員会での決定というのは町民の代表者として議論がなされた重い位置付けにはなると思います。

署名

壬生町庁舎建設委員会

委員

田中一男

委員

岡本新夫
